

多言語化現象研究会

過去の研究会の活動 ([第1-40回](#) [第41回以降](#))

[研究会の趣旨](#) [研究会の組織・運営、連絡先](#) [関連研究会リンク](#)

[関連・新着図書](#)

[「事典 日本の多言語社会」\(岩波書店 2005年\)](#)

[「まちかど多言語表示調査報告書」\(2006年\)](#)

[「ことばと社会 11号 特集：移民と言語」\(三元社 2008年\)](#)

[「日本の言語景観」\(三元社 2009年\)](#)

[「ことばと社会 12号 特集：移民と言語」\(三元社 2010年\)](#)

[「多言語社会日本ーその現状と課題」\(三元社 2013年\)](#)

(「教師用手引き」三元社HPで公開しました)

多言語化現象研究会 第51回研究会

日時 2013年12月22日(日) 1315-1630

場所：関西学院大学 梅田キャンパス 1005室

(大阪市北区茶屋町 アプローチタワー 10階)

阪急「梅田駅」下車 http://www.kwansei.ac.jp/kg_hub/access/

参加費 500円 (資料代ほか)

<プログラム>

1315-1445 発表1

渡辺正恵（「博士（経営学）・たからづかこりあん研究会主宰）

テーマ：「宝塚韓国小学校における民族教育（1948-1962）」

要旨：

1948年、武庫郡良元村伊子志（いそし）荒地（現、宝塚市）に宝塚韓国小学校が誕生した。戦後在日コリアンの子どものために作られた国語講習所はほとんどが朝鮮学校へと発展したが、民団系の民族学校として大都市以外の地域に存在したのは、この学校が唯一と思われる。日本の社会に対応しつつ、民族教育を施すことを念頭に継続したが、1962年財政事情の悪化により閉校となった。残された史料と卒業生への聞き取りから、当時の民族教育を考える。

1445-1500 休憩

1500-1630 発表2

磯野英治（大阪大学 国際教育交流センター）

テーマ：「様々な国の日本語を中心とした多言語景観 -現状分析及びその成果の教育的活用-」

要旨： 本発表ではまず発表者が韓国、インドネシア、日本等で調査を行ってきた日本国内外の日本語を中心とした多言語景観についてその特徴を報告する。その上で言語景観が日本語教育や社会言語学、語用論の教育にも活用可能であることを論じ、授業実践例を紹介しながらその方法論について検討する。

☆☆☆

1700- 近くの会場

初めの方も歓迎します。準備の都合上、出席の方のみ、かならずメールで事務局までご連絡ください。特に質問などない限り出席通知には受領確認の返事はしませんのでご了承ください。研究会への連絡、質問は事務局へ直接お願いします。

会場となる関西学院大学大阪梅田キャンパスは阪急梅田駅 茶屋町口改札口より北へ徒歩5分のアプローチタワーで、同じ建物内にホテル阪急インターナショナル、梅田芸術劇場などがあります。

（10階受付、TEL 06-6485-5611）。

多言語化現象研究会事務局： tagengoka-gensyoo☆idc.minpaku.ac.jp （☆を@でおきかえてください）

研究会ホームページ： <http://www.r.minpaku.ac.jp/hirshoji/tagengo/>